

## 国立大学法人秋田大学の中期計画 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 教育に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>【3】③高校から大学への接続を円滑に行うため、平成22年度「大学教育推進プログラム」として採択された「高大接続の実践的プロジェクト」の成果を継承し、秋田県の高等学校教諭と本学教員が合同で編集し平成26年3月に発刊した「秋田大学高大接続テキスト」を自学自習用として活用し、その成果を<u>高大接続センター（仮称）</u>において検証のうえ、改善につなげる。</p>	<p><b>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 教育に関する目標を達成するための措置</b></p> <p><b>(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>【3】③高校から大学への接続を円滑に行うため、平成22年度「大学教育推進プログラム」として採択された「高大接続の実践的プロジェクト」の成果を継承し、秋田県の高等学校教諭と本学教員が合同で編集し平成26年3月に発刊した「秋田大学高大接続テキスト」を自学自習用として活用し、その成果を<u>高大接続センター</u>において検証のうえ、改善につなげる。</p>	<p>○高大接続センターの設置（平成29年4月1日付）に向けた検討の中で、センター名を決定したため</p>

現 行	変 更 案	変更理由
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(4)入学者選抜に関する目標を達成するための措置</p> <p>【17】①平成32年度の入試改革に向けた体制整備として、<u>高大接続教育部門（仮称）</u>、<u>入学者選抜方法等研究開発部門（仮称）</u>及び<u>広報推進部門（仮称）</u>からなる<u>秋田大学高大接続センター（仮称）</u>の平成29年度中の設置に向けた準備を開始し、<u>設置準備委員会</u>の下でAO（アドミッション・オフィス）入試や推薦入試の実施状況・実施結果の検証を行うとともに、アドミッション・ポリシーに基づいた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜システムを開発し、平成30年度にはその概要を公表し、平成32年度入試から導入する。</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(4)入学者選抜に関する目標を達成するための措置</p> <p>【17】①平成32年度の入試改革に向けた体制整備として、<u>高大接続教育部門</u>、<u>アドミッション部門</u>及び<u>広報推進部門</u>からなる<u>秋田大学高大接続センター</u>の平成29年度中の設置に向けた準備を開始し、<u>アドミッション部門</u>の下でAO（アドミッション・オフィス）入試や推薦入試の実施状況・実施結果の検証を行うとともに、アドミッション・ポリシーに基づいた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜システムを開発し、平成30年度にはその概要を公表し、平成32年度入試から導入する。</p>	<p>○高大接続センターの設置（平成29年4月1日付）に向けた検討の中で、センター名及び部門等の名称を決定したため</p>

現 行	変 更 案	変更理由
<p><b>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>【26】①学生の地域に関する知識・理解を深めるため、地域志向に関する教育を教育内容の充実等により実施する。また、第3期中期目標期間中に本学特有のCOCキャリア認証の仕組みを<u>地域創生センター</u>で構築し、フィールドワークや地域活動への参加を奨励して、地域に 関わる学生を平成27年度末と平成33年度末を比較して10%以上増加させる。</p> <p>【29】①地域社会に開かれた大学として、引き続き「秋田大学子ども見学デー」を年1回実施するとともに、社会人向けの公開講座を年7講座以上開催し、地域へ教育研究資源を提供する。事業ごとにアンケートを実施して、その結果について外部委員を含む<u>地域創生センター運営委員会</u>で検証し、次年度以降の取組に反映させる。また、引き続き国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育である「秋田大学理工学部通信教育講座」を開講し、社会人の職業上必要な知識や技術の習得及び教養のレベルアップに貢献する。</p>	<p><b>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>【26】①学生の地域に関する知識・理解を深めるため、地域志向に関する教育を教育内容の充実等により実施する。また、第3期中期目標期間中に本学特有のCOCキャリア認証の仕組みを<u>地（知）の拠点推進本部</u>で構築し、フィールドワークや地域活動への参加を奨励して、地域に 関わる学生を平成27年度末と平成33年度末を比較して10%以上増加させる。</p> <p>【29】①地域社会に開かれた大学として、引き続き「秋田大学子ども見学デー」を年1回実施するとともに、社会人向けの公開講座を年7講座以上開催し、地域へ教育研究資源を提供する。事業ごとにアンケートを実施して、その結果について外部委員を含む<u>地方創生センター運営会議</u>で検証し、次年度以降の取組に反映させる。また、引き続き国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育である「秋田大学理工学部通信教育講座」を開講し、社会人の職業上必要な知識や技術の習得及び教養のレベルアップに貢献する。</p>	<p>○組織の再編（平成28年4月1日付）に伴い、名称が地（知）の拠点推進本部となるため</p> <p>○組織の再編（平成28年4月1日付）に伴い、名称が地方創生センター運営会議となるため</p>

現 行	変 更 案	変更理由
<p>【30】②東日本大震災を機に設置された地域創生センター地域防災部門を中心に、外部有識者として秋田県や県内各市町村の防災計画委員会等に参画し、指導・助言を行い、地域防災力を向上させる。また、引き続き地域防災組織や小中学校等での防災教育に協力し、地域における防災意識を向上させるため、各種講演や出前講義を年30件以上実施する。</p> <p>【31】③秋田県内に設置されている秋田大学分校（横手分校，北秋田分校，男鹿なまはげ分校の3校）を通じて、引き続き本学の所在する秋田市以外の地域へ教育研究資源を提供する。具体的には「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」等の公開講演会を年5件以上，小中学生向けの科学教室等を年8件以上，学生と地域住民との交流活動を年9件以上実施する。また，連携協定締結自治体における地域の活性化を図るため，学生と地域が連携した地域の魅力発掘活動や教育資源の提供などの地域課題解決に向けた実践的取組を継続・発展させる。さらに，事業ごとにアンケートを実施して，その結果について外部委員を含む地域創生センター運営委員会で検証し，次年度以降の取組に反映させる。</p>	<p>【30】②地方創生センター地域協働・防災部門を中心に、外部有識者として秋田県や県内各市町村の防災計画委員会等に参画し、指導・助言を行い、地域防災力を向上させる。また、引き続き地域防災組織や小中学校等での防災教育に協力し、地域における防災意識を向上させるため、各種講演や出前講義を年30件以上実施する。</p> <p>【31】③秋田県内に設置されている秋田大学分校（横手分校，北秋田分校，男鹿なまはげ分校の3校）を通じて、引き続き本学の所在する秋田市以外の地域へ教育研究資源を提供する。具体的には「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」等の公開講演会を年5件以上，小中学生向けの科学教室等を年8件以上，学生と地域住民との交流活動を年9件以上実施する。また，連携協定締結自治体における地域の活性化を図るため，学生と地域が連携した地域の魅力発掘活動や教育資源の提供などの地域課題解決に向けた実践的取組を継続・発展させる。さらに，事業ごとにアンケートを実施して，その結果について外部委員を含む地方創生センター運営会議で検証し，次年度以降の取組に反映させる。</p>	<p>○組織の再編（平成28年4月1日付）に伴い，名称が地方創生センター地域協働・防災部門となるため</p> <p>○組織の再編（平成28年4月1日付）に伴い，名称が地方創生センター運営会議となるため</p>

現 行		変 更 案		変更理由
<b>別表(収容定員)</b>		<b>別表(収容定員)</b>		○平成29年度に収容定員が0人となるため
学 部	国際資源学部 480人 教育文化学部 840人 (うち教員養成に係る分野 440人) 医学部 1,047人 (うち医師養成に係る分野 595人) 理工学部 1,604人 工学資源学部 0人	学 部	国際資源学部 480人 教育文化学部 840人 (うち教員養成に係る分野 440人) 医学部 1,047人 (うち医師養成に係る分野 595人) 理工学部 1,604人 (削除)	
大 学 院	国際資源学研究科 110人 (うち博士前期課程 80人) (うち博士後期課程 30人) 教育学研究科 52人 (うち修士課程 12人) (うち専門職学位課程 40人) 医学系研究科 163人 (うち修士課程 10人) (うち博士前期課程 24人) (うち博士後期課程 9人) (うち博士課程 120人) 理工学研究科 330人 (うち博士前期課程 300人) (うち博士後期課程 30人) 工学資源学研究科 0人 (うち博士前期課程 0人) (うち博士後期課程 0人)	大 学 院	国際資源学研究科 110人 (うち博士前期課程 80人) (うち博士後期課程 30人) 教育学研究科 52人 (うち修士課程 12人) (うち専門職学位課程 40人) 医学系研究科 163人 (うち修士課程 10人) (うち博士前期課程 24人) (うち博士後期課程 9人) (うち博士課程 120人) 理工学研究科 330人 (うち博士前期課程 300人) (うち博士後期課程 30人) 工学資源学研究科 0人 (うち博士前期課程 0人) (うち博士後期課程 0人)	